

皆さんお元気ですか

2017年7月の出来事を綴っています。ご覧くださいませ。



7月7日(金)、Raymari という動物病院に我が家の飼い猫(Kalin)を連れていった。9月25日に私は帰国するので、Kalinも一緒に連れて帰ることにした。しかし、猫を日本に連れて帰るには、準備が色々あって、面倒だ。今日は、猫にマイクロチップの埋め込みと血液検査のために行った。ショルダーバッグに猫を入れて、自転車で病院まで行った。途中で猫がバックから飛び出して逃げないか、また窒息死でもしていなかと心配しながら、ニカラグアの込んでいる道路を冷や冷やししながら自転を漕いだ。この病院は、我が家の近くの動物病院からの紹介で行った。しかし、紹介してくれた病院から何の情報も伝わってなかった。ああ、ニカラグアだなあとがっかりした。しかし、Kalinの処理は無事終了、検査結果は、米国のカンサス州から2か月後に送られるとのことだった。今回の費用は、270ドル。猫を日本に持ち帰るのも一苦労する。



7月13日、UCA 大学校内の食堂で、外の長丸テーブルで休憩していた。そうしたら、綺麗な女性が私の前に座り、ランチを食べ始めた。同様に他の男女も同じテーブルに着いた。みんなが食べているおかずを覗いてみたら、殆んどの方はご飯ととんかつのような揚げ物だけだった。しかし、私の前の綺麗な女性の皿は、ご飯、揚げ物、それにサラダだった。その人は、上品に食べていた。携帯を見ながら肘をつきながら食べる人とは違っていた。絶対にニカラグア人ではないと食べ方とサラダで断定した。しかし、ジッとみている訳にはいかず、何か機会があれば話かけたいと思っていた。そしたら、その女性と私の前に、他の学生が忘れていったプリントが飛んできた。その紙を同時に見て、彼女と目が合った。そして、おもしろいねと言いたそうな顔して、彼女を見た。彼女も私を見た。そして、彼女にスペイン語で尋ねた。あなたはニカラグア人ですか。NO。そして、今度は彼女が尋ねた。私は日本人と答えた。そしたら、彼女は、ニカラグアで日本人を見たのは、あなたが初めてだと、日本語で話してきた。



7月14日、UCA大学で、スペイン語の検定試験（DELE）を受けた。レベルはA2で、初歩から2番目のレベルだ。実はA1（レベル1）も以前に受けたが不合格だった。しかし、ニカラグアに来て、何も得ないで日本に帰るのはしゃくだからと思って、スペイン語を勉強するための目標として勉強してきた。もう60歳を過ぎてからはなかなか単語が頭に入らない。試験中に問題用紙をじっくり読んでいたら、なぜか、脳がスペイン語モードになって、少しずつではあるが、内容が理解できるようになった。試験結果はたぶんだめだと思うけど、すこしだけは身に付いているのかなぁと実感して少しうれしかった。日ごろの勉強は、決して無駄ではなかったと気づいた。さて、試験の休憩時間に廊下にでたら、昨日の綺麗な女性にまた会った。彼女はベルギー人で、マイクロファイナンスをニカラグア人に教えているボランティアだった。スペインの大学院に行きたいので、この検定試験を受けているとのことだった。日本の神戸大学でも勉強していたとのこと。どおりで、日本語が上手いんだ。しかし、世の中には、いろんな人がいるんだなぁ。また、会えるといいな。



7月16日、コンベンションセンターでカカオの製品販売会があるということで行った。JICA青年海外協力隊の配属先もこの展示場のブースに出店していると聞いたので応援かたがた行った。以前からいつも疑問に思っていたことがある。ニカラグアではカカオが代表的な農産物と聞いている。しかし、自宅のスーパーにいてもニカラグア製のチョコレートは見たことがない。アメリカ製はあふれているが、どうしてニカラグア製チョコレートはないのだろうか。ニカラグアのチョコレート工場でボランティア活動している青年隊に聞いてみた。彼が言うには、ニカラグア人は起業したくないらしい。また、販売、マーケティングなどの知識もないとのこと。でもこちらの大学には、商学部もあるのだが。カカオの生産農家は、ほとんどが個人で小規模らしい。企業はないとのこと。ボランティアの配属先は、個人農家からカカオを回収して、チョコレートなどの製品にして販売しているがその市場は非常に狭いらしい。こちらの人たちは、企業の発展や個人の利益などあまり考えないようだ。どのようにして、毎日の生計を立てているのだろうか。不思議だ。



カカオの木

